

JAZAの動物福祉への取り組み

第2回アジア地域動物園水族館協会連携会議シンポジウム

令和元年9月29日 東京都美術館講堂
(公社)日本動物園水族館協会 福田豊

JAZAとは？

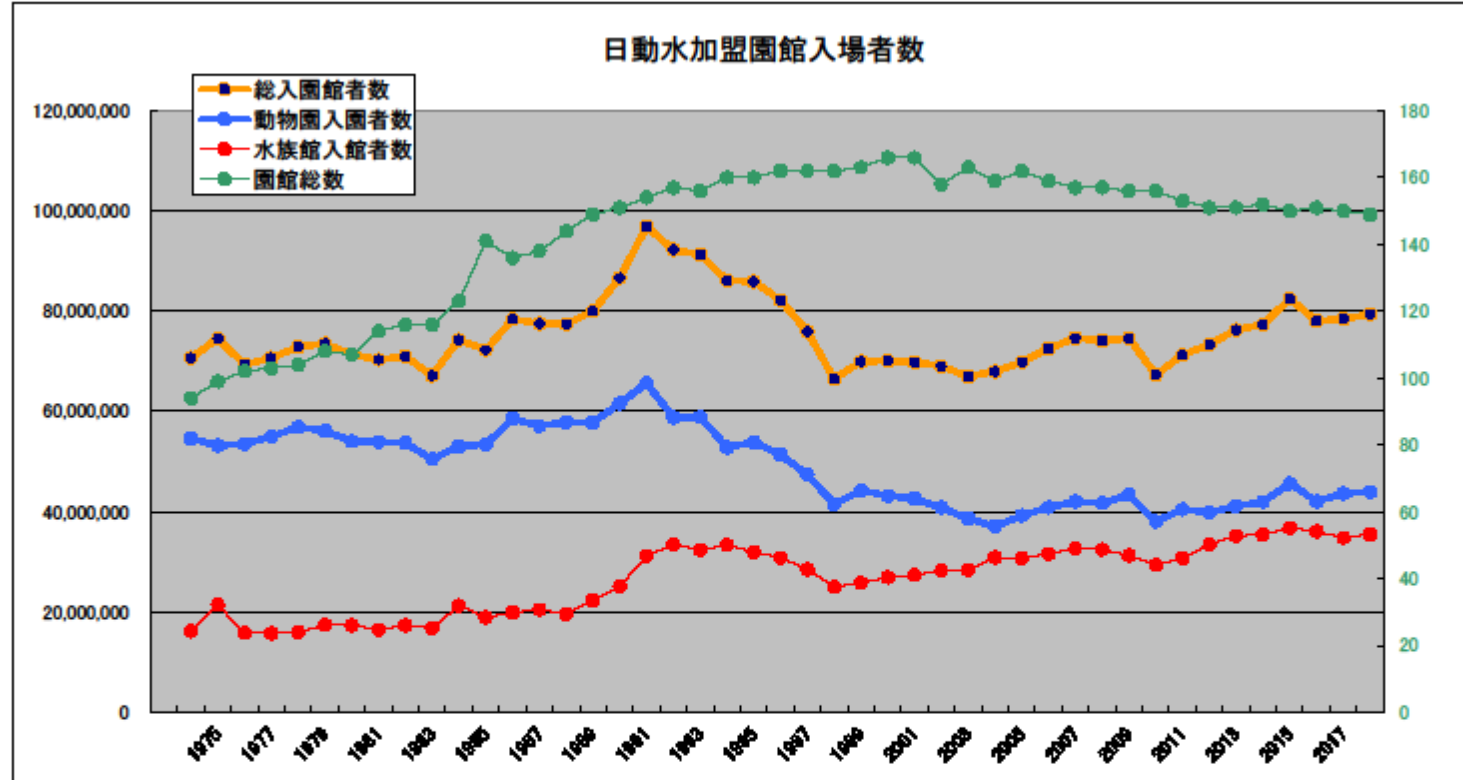
2

1. 公益社団法人日本動物園水族館協会（総裁：秋篠宮皇嗣殿下）
2. この法人は、動物園、水族館事業の発展振興を図ることにより、文化の発展と科学技術の振興並びに自然環境の保護保全に貢献し、もって人と自然が共生する社会の実現に寄与することを目的とする。
3. 会員 動物園91 水族館57 計148 維持会員68団体（2019.4.1現在）
4. 地域ブロック（関東東北北海道、中部、近畿、中国四国、九州沖縄）
5. 執行委員会（総務、教育普及、安全対策、生物多様性、地域）



JAPANESE
ASSOCIATION OF
ZOOS AND
AQUARIUMS

日本
動物園
水族館
協会

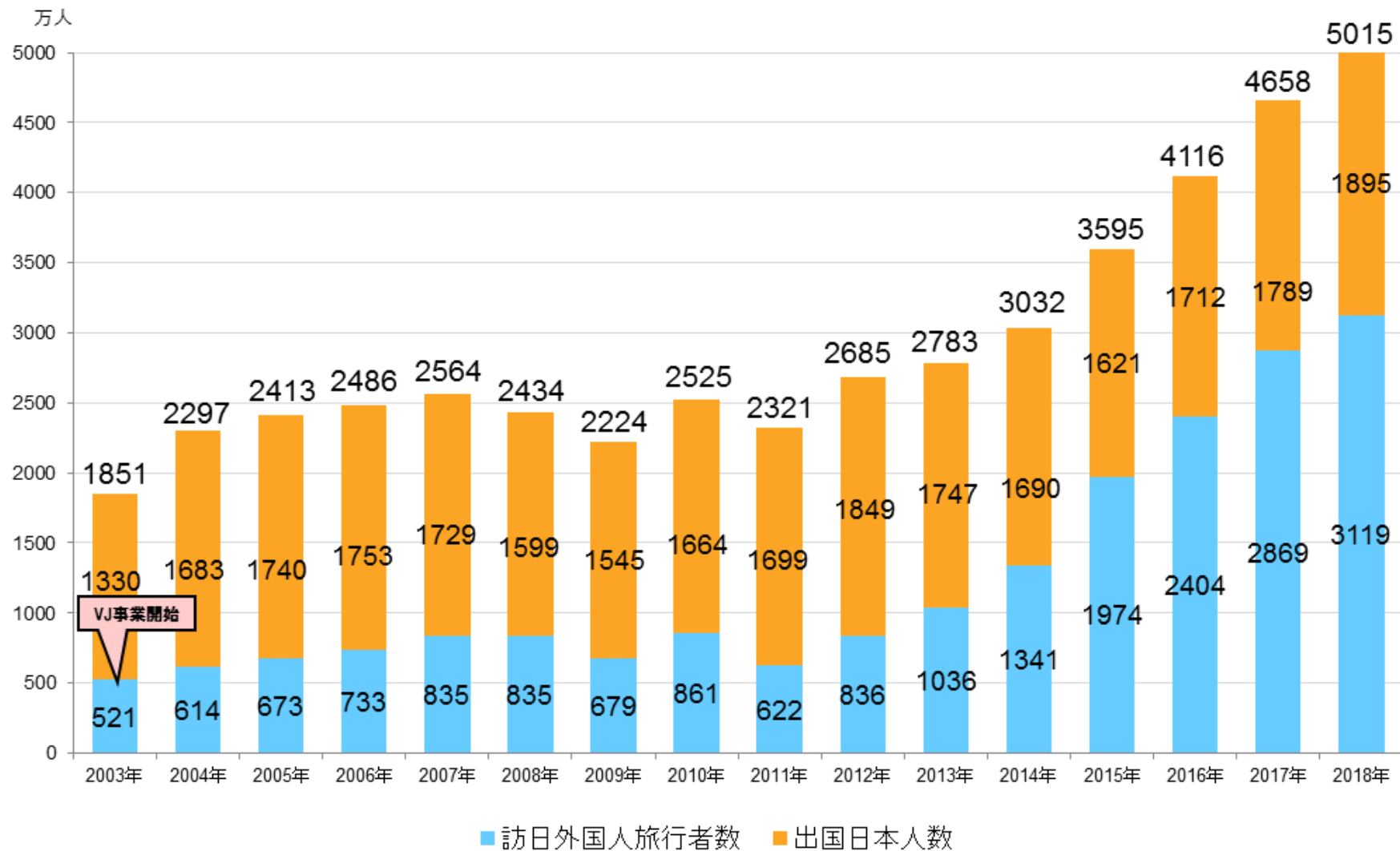


現在、JAZAが取り組んでいる課題

1. コレクションプラン(JCP)に基づく飼育ガイドラインの策定
2. 絶滅危惧種の保全推進、研究機関等との連携強化など
3. 鯨類の飼育下繁殖を含む水族館課題への対応(水族館部会設置)
4. 動物福祉の向上と評価プロセスの構築(2023年までに)
5. 動物による事故の発生防止と情報共有
6. アジア地域動物園水族館協会等との連携強化



訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



出典：日本政府観光局(JNTO)

2nd WAZA Animal Welfare Assessment Summit

11-12 July 2019, Barcelona Spain

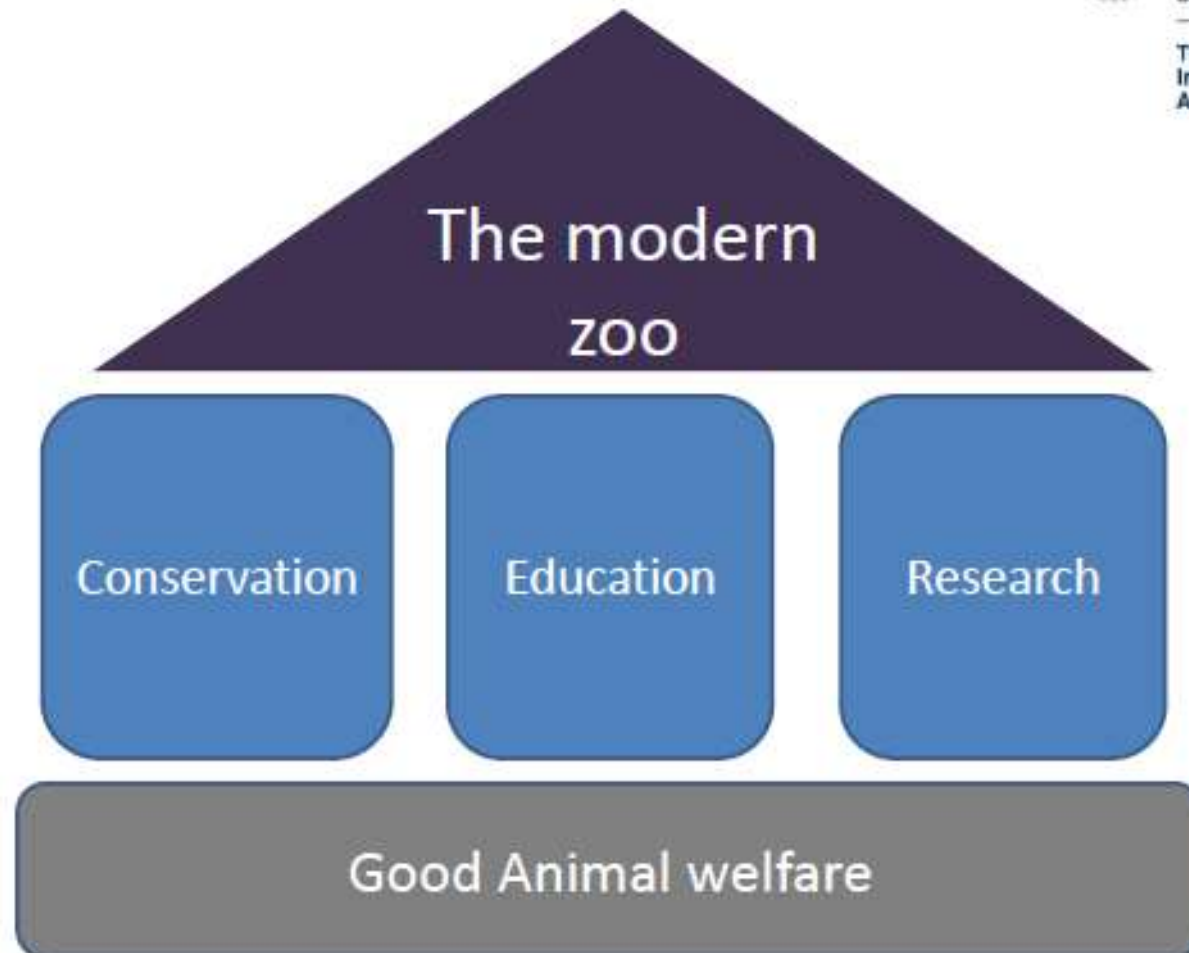
6

1. WAZAの国別協会会員と地域別協会会員は、2023年12月31日までに、動物福祉評価プロセスを設置していなければならない。このプロセスはWAZAが承認する特定の要素を含んでいなければならない。
2. WAZA施設会員の園館全ては、2023年12月31日までにこのプロセスを遵守しこれに適合していなければならない。
3. 動物福祉評価プロセスの詳細は2019年11月にブエノスアイレスで開催されるWAZA総会で議論される(予定)



THE UNIVERSITY of EDINBURGH
The Royal (Dick) School
of Veterinary Studies

The Jeanne Marchig
International Centre for
Animal Welfare Education



動物福祉に関するこれまでの取り組み

1. 2016 定款改正(会員資格喪失・停止等)
2. 2016 WAZA動物福祉戦略を日本語翻訳し配布
3. 2017 倫理規定改正(適正な飼育諸条件等)
4. 2017 JAZAコレクションプラン策定
5. 2017-19 動物福祉ワークショップの開催(東京・大阪・福岡・札幌)
6. 2017 動物福祉に配慮した展示動物の飼育について(HP掲載)
7. 2017 JAZA総務委員会栄養部会を設置
8. 2018-19 JAZA版動物福祉評価チェックリスト(案)の作成

3年間に4回開催 2日間コース
動物園**61**園、水族館**19**館
合計**80**園館の**131**名が参加



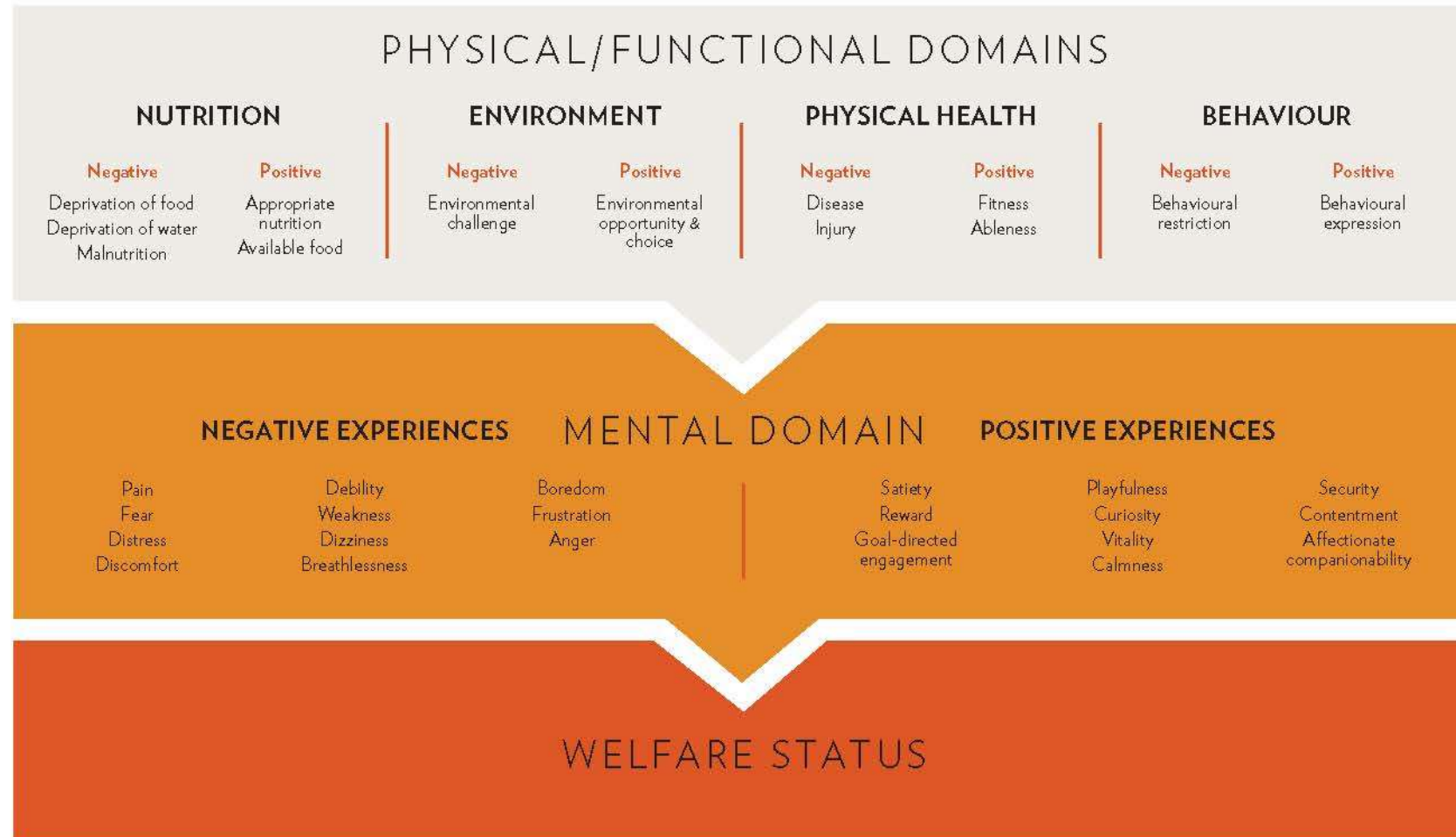


Fig. 1. The Five Domains model for understanding animal welfare, divided into physical/functional and mental components, provides examples of how internal and external conditions give rise to negative (aversive) and positive (pleasant) subjective experiences, the integrated effects of which give rise to an animal's welfare status (from Mellor *et al.* 2015).

JAZA版動物福祉評価チェックリスト(案)の構成

10

5つの領域		評価項目
1. 栄養 (飼料と飼料の衛生管理)		9 項目
2. 環境 (飼育施設、柵)		17 項目
3. 健康 (獣医学的ケア)		25 項目
4. 行動 (行動上の健康)		14 項目
5. 心理(精神的健康)		4 項目
6. その他	記録 健康と安全 施設 人事	4 項目 8 項目 1 項目 6 項目

合計88の評価項目

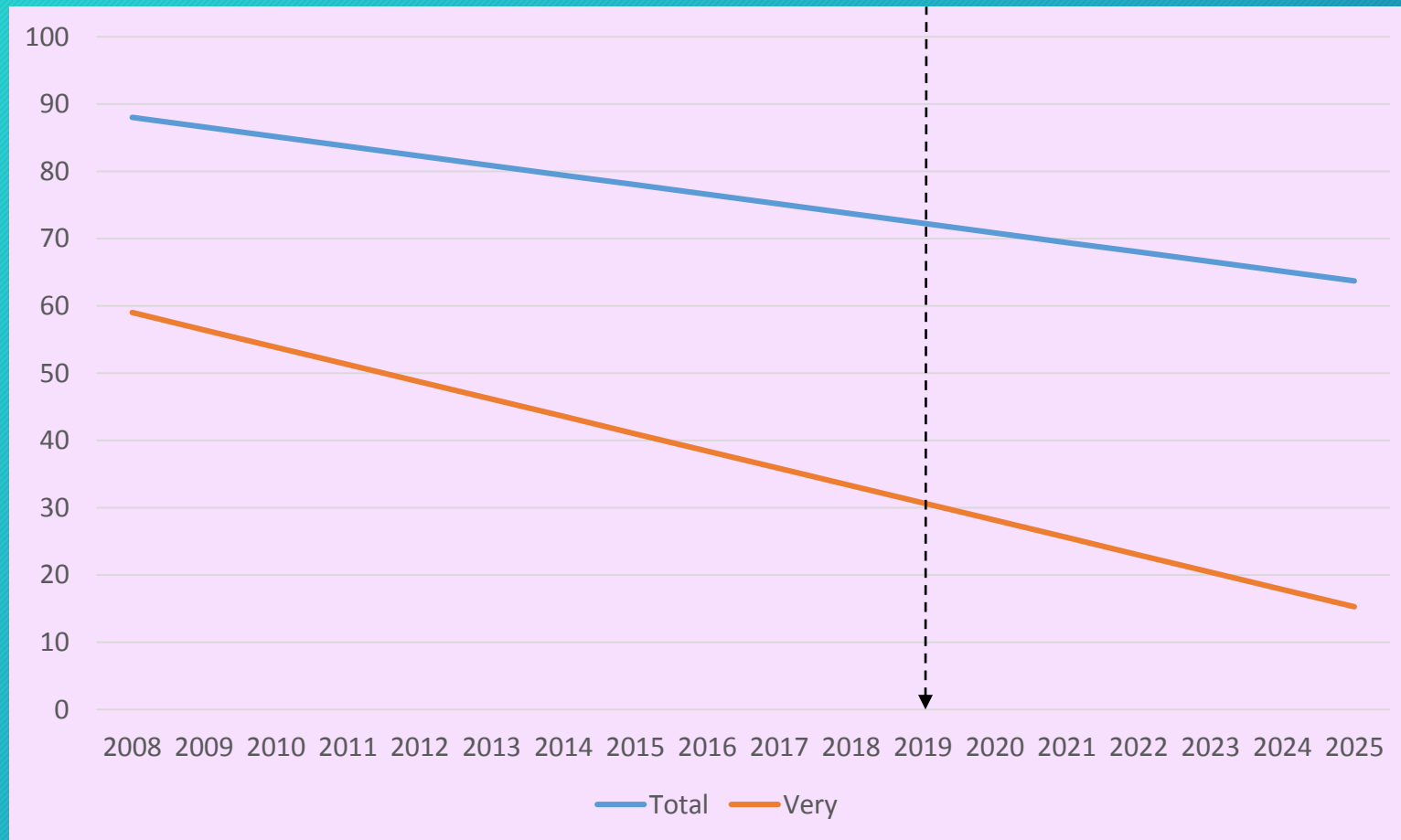
動物福祉向上のための今後の取り組み

1. 会員の動物福祉に関する理解の促進
動物福祉ワークショップ、エンリッチメントやトレーニングに関する研修等
2. 動物福祉評価プロセスを構築して実施する(2023年までに)
 - ①JAZA動物福祉チェックリストの完成
 - ②評価基準の設定(飼育ガイドライン等)
 - ③具体的な実施方法、スケジュールの検討
 - ④評価者の訓練
 - ⑤改善支援策等の検討など
3. 大学等研究機関との連携による科学的知見の収集など
4. 会員資格審査(現在は入会時のみ)の見直し
正会員入会審査要綱等の改正など



Zoo Favorability - Straight Line Projection

12



Why? What? How? The Questions Zoo & Aquariums Need to Ask Themselves
Steve Burns Chairman-AZA, Director-Zoo Boise (2015)

JAZAのこれからの課題

13

1. JAZA10年ビジョン・行動計画(2013)の更新
2. 動物福祉を基盤とした動物園水族館の事業支援システム構築
3. 日本国内の動物園水族館支持世論の醸成の取り組み
4. 法的基盤整備の要望(「動物園水族館法」の制定)
5. アジア地域の連携強化とWAZAコミュニティでの発信力強化
6. 動物園水族館人材の育成
7. 継続的な組織改革

ご清聴ありがとうございました



www.jaza.jp